

## 歴史コンテンツ

番号	コンテンツ	内容	時期	具体的な場所	関連テーマ
1	九華公園 桑名城跡	関ヶ原の戦いの後、徳川家康は徳川四天王の本多忠勝を桑名10万石に封じた。慶長6年(1601年)に忠勝は桑名に入り、桑名城と城下町の整備を行った。ほかにも、洪水から城下町を守るため、町屋川を南に付け替えるなど、大規模な工事を行い、桑名の礎を築いた。天守閣は、元禄の大火によって焼けるとその後再建されなかった。城の建物は、明治維新後に払い下げられるなどしたため、現在は残っていない。城跡は、九華公園として整備され市民の憩いの場となっている。	春の桜の時期	九華公園内	本多忠勝 松平家 鎮国守国神社
2	諸戸・住吉の歴史	初代諸戸清六は米相場などで成功し、一代で成功した。初代清六の屋敷と事業は次男精太が相続し、現在は諸戸氏庭園として国の名勝・国の重要文化財に指定されている。四男清吾は二代清六を襲名し家業を引き継いだ。二代清六の新居として、建設されたのが、今の六華苑である。六華苑は鹿鳴館の設計を手掛けたジョサイア・コンドルの設計であり、こちらも国の名勝・重要文化財となっている。県指定文化財になっている諸戸水道は、明治37年に初代清六が私財を投じて建設しました。水道を自邸へと引き込むだけでなく、市民へも開放しました。六華苑は、現在では多くのドラマや映画の撮影にも使われている。	年中	六華苑(旧諸戸清六邸) 諸戸氏庭園 諸戸水道	諸戸家
3	本多忠勝	徳川四天王の一人として、徳川家康の天下統一を支えた。生涯において参加した合戦は大小合わせて57回に及んだが、いずれの戦いにおいてもかすり傷一つ負わなかったと伝えられている。愛槍は「蜻蛉切」。桑名の初代藩主として、城と城下町を整備し、これを「慶長の町割り」と呼んでいる。慶長10年には、多度大社を再建するなど社寺の復興にも力を注いだ。慶長15年(1610年)10月18日に桑名で死去。墓所は浄土寺にある。	年中	九華公園前銅像 浄土寺 多度大社 立坂神社	本多忠勝
4	慶長の町割り	慶長の町割りについては、慶長自記に記録があり「桑名町割の事、五月の末に被仰付、六月十八日に普請始り、エミトホリコノ舟入ほられ申候。(中略)町中家蔵こぼち、春日の内に小屋をさし、取はらい」とある。」忠勝が行った町割は、それまでであった町中の家や蔵を壊し、作り直すなど徹底されたものだった。今でも町割りは残り、江戸時代以来の町名も残る。	年中	桑名城 桑名城下町遺跡	本多忠勝
5	松平家・松平定信	本多家が姫路に移封となって、松平家がかわって桑名藩に入る。これが久松松平家で、3代から7代まで藩主を務めるが、7代定重の時に越後高田へ転封となった。久松松平家はその後、奥州白河に1741年に移る。老中となって寛政の改革を行った松平定信は、田安家から養子に入った。その子、定永の時に父祖の地、桑名に所替えとなる。この時、久松松平家が白河から桑名、奥平松平家が桑名から武蔵忍(今の埼玉県行田市)、阿部家が忍から白河へ移り、三方領地替えであった。今でもこの時の縁で、桑名・白河・行田の交流は続いている。	年中	桑名城跡 鎮国守国神社 照源寺 円妙寺	戊辰戦争 行田・白河
6	照源寺、円妙寺	照源寺は京都の知恩院を総本山とする浄土宗のお寺で、桑名藩主松平家の菩提寺で、三重県指定文化財となっている。円妙寺は日蓮宗の寺院である。六代藩主の松平定良が、法華宗を信仰したため、建立された。定良霊廟と一族縁者の墓が存在する。	年中	照源寺 円妙寺	松平家

7	戊辰戦争	黒船の来航以後を、幕末と呼ぶ。国内は、開国か尊王攘夷かで国論を二分し、政局は混迷を極めていた。この時期、京都において政局の中心となったのが、一橋慶喜と京都守護職の会津藩主松平容保、京都所司代の桑名藩主松平定敬であり、頭文字をとって一会桑勢力と呼ばれる。容保と定敬は、美濃高須から入った養子で実の兄弟であった。 しかし、後ろ盾となっていた孝明天皇が崩御されると、形勢は討幕を主張する長州・薩摩に傾き、両勢力の間で戦争となった。これを戊辰戦争と呼び、敗れた会津・桑名などは、朝敵となって追討を受ける側となった。慶喜・容保・定敬は、船で江戸へと逃れたため、残された藩士は桑名に戻るもの、藩主を追って江戸へ向かうものもいた。国許では、新政府軍が迫る中、開城か決戦かの選択を迫られ、無血開城を選びその証として辰巳櫓が焼かれることとなった。	年中	・桑名城跡 ・鎮国守国神社 ・照源寺 ・十念寺	松平家
8	村正	「徳川家に仇をなす刀」と忌み嫌われてたとの言い伝えがあり、妖刀とも称される「村正」は、室町時代から桑名で作刀を行った。美濃赤坂から桑名に移ってきたとされ、江戸時代初期まで何代も渡って活躍した刀工。真田幸村をはじめ多くの武将が愛用。特徴として波紋や「茎(なかご)」の形がタナゴ腹とよばれるふっくらした形になっている。	企画展 時期など	走井山 桑名市博物館 仏眼院 春日神社	本多忠勝 徳川家康
9	宝暦治水	江戸時代中期、幕命によって薩摩藩が施工した木曾三川(木曾川・長良川・揖斐川)の治水工事の事。工事中に多くの薩摩藩士が亡くなっており、幕府との関係悪化から自害したとする説が、これまで言われてきた。薩摩藩総指揮の家老・平田鞆負も自害とされてきたが、近年病死とする見解が出されている。	年中	木曾三川 海蔵寺 長寿院 長禅寺 常音寺	輪中 薩摩藩
10	長島一向一揆	伊勢長島を中心とした地域は、浄土真宗の一大勢力圏であり、核となった願証寺を中心として、信長に抵抗して蜂起したのが長島一向一揆である。織田信長との間で大きく分けて三度に渡る激しい合戦が起こり、数多くの門徒たちが、焼き殺されるなどした。その後、生き残ったものは、大坂などに落ち延び、再び信長と戦うなどしている。返ってきた者によってできた寺院が長島六坊と呼ばれ、今も4か寺が長島に残る。多度町下野代にある野志里神社の境内には、「千人塚」と刻まれた石碑が立っている。これは長島一向一揆の際に討死した人々を祀っているとされている。	年中	願証寺 長島六坊 多度大社 千人塚	輪中 織田信長
11	多度大社	多度大社は、5世紀頃創建されたと伝えられています。祭神は「天津彦根命(あまつひこねのみこと)」で、別宮一目連(いちもくれん)神社には「天目一箇命(あめのまひとつのみこと)」が祀られています。 天平宝字7年(763)には、満願禅師(まんがんぜんじ)によって神宮寺(じんぐうじ)が創建されました。天文2年(1533)の記録によると、神宮寺は寺院数70、僧侶は300余人を数えその隆盛を誇っていましたが、元龜2年(1571)の織田信長伊勢侵攻の時火をかけられ、神社と寺悉く焼失しました。慶長6年(1601)多度は桑名藩領となり、慶長10年(1605)初代藩主本多忠勝によって復興されました。 毎年5月4・5日には、上げ馬神事が行われ、若者が境内めがけて疾走します。	年中	多度大社	本多忠勝 長島一向一揆 上げ馬神事
12	増山雪齋	伊勢国長島藩主で、名は正賢といい雪齋と号した。文雅を好み、書画をよくした。花鳥画や山水画を得意とし、数多くの作品を残している。文政2年(1819)に没しており、2019年は没後200年にあたる。	企画展 時期など	博物館 花林院(増山家墓所)	増山家